

大船渡市吉浜地区教育振興運動実践協議会

- 「テーマ」
- 震災を超えて・新たな教育課題への取組
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
 - PDCAサイクルによる推進の取組
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
 - 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

活動のようす



『歴史遺産と伝統文化の継承』

～ふるさと吉浜の再生～

1 地域の教育課題

東日本大震災での当地区の被害は、防潮堤の損壊、田畑の冠潮等により甚大であった。また、親の仕事の解雇、失職等による経済的な影響は大きい。更に、少子化によって地域の教育活動内容が制限されてきている。

課題の裏づけデータ

現在の漁港の復興状況の把握及び生徒の置かれている家庭環境の把握からわかる。

2 役割分担と年間の計画

○課題解決のためのそれぞれの役割

<子ども> 吉浜にある郷土の史跡や郷土に伝わる伝統行事を理解し守り伝えていく。

<保護者> 郷土芸能、伝統行事を実践している団体を支援し、保存活動を推進する。

<先生> 吉浜にある郷土の史跡や郷土に伝わる伝統行事を理解し、教育課程編成に役立てる。

<地域> 郷土芸能、伝統行事を実践している団体を支援する。

<行政> 教育環境の充実を図る。

○課題解決のための年間の取組

- (1) 小中合同運動会での郷土芸能「吉浜鎧剣舞」に参加
- (2) 郷土の偉人「水上助三郎」銅像周辺の草刈り奉仕活動
- (3) 過去に起きた津波による体験講話から、地域の置かれている現状を知る
- (4) 国の重要無形文化財である「スネカ」への参加
- (5) 郷土芸能まつりへの「吉浜鎧剣舞」による参加

3 取組の様子

- (1) 5月中旬に吉浜中学校で小中合同運動会を行った。その中で、小学4年生～6年生が郷土芸能「吉浜鎧剣舞」の舞に参加し、中学生が笛とお囃子を担当した。中学生は自主的な参加であったが、積極的な姿勢に好感が持たれた。
- (2) 6月中旬に地震・津波避難訓練を実施した。これは校外活動時を想定したものである。郷土の偉人「水上助三郎」銅像周辺の草刈り奉仕活動中に、地震が発生し津波が押し寄せるという想定であった。地域の実態を理解する上でも効果的であった。
- (3) 明治三陸大津波及び昭和の大津波そして、東日本大震災による大津波の経験談をもとに、吉浜がこれまでに歩んできた歴史について触れることができた。これらのことからこれからの吉浜地区の歩む方向性を見出したような気がする。
- (4) 毎年1月15日に行われる国の重要無形文化財である「スネカ」に中学生が参加することになっている。その事前練習会を12月下旬に行った。地域の伝統行事を守ろうという意識を感じた。
- (5) 2月に行われる郷土芸能まつりに「吉浜鎧剣舞」の踊り手として参加する予定である。

4 課題解決を判断する評価の方法

(課題に対しての今後の方向性)

地域を理解し、地域と共に歩んでいくことによって郷土愛が芽生え、自分自身も大きく成長していくものと確信する。